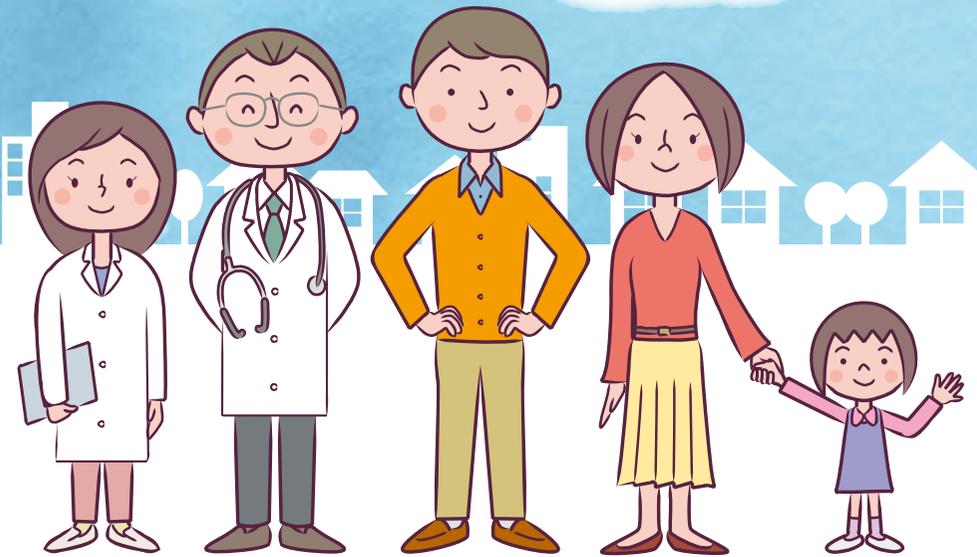


デムサーによる 治療を受けられる患者さんへ

医療機関名



はじめに

この冊子は、デムサーによる治療を受けられる患者さんやそのご家族の方を対象に、褐色細胞腫かっしょくさいぼうしゅやデムサーによる治療についてわかりやすく説明したものです。

褐色細胞腫とはどのような病気なのか、デムサーとはどのようなお薬で、どのような副作用があるか、などについてまとめました。

病気や治療についてあらかじめ知っておくと、気持ちに余裕ができ、安心して治療に取り組むことができます。そのために、この冊子をお役立てください。

もし、わからないことや疑問に感じたこと、この冊子に記載された副作用で思い当たることがあれば、主治医や看護師、薬剤師にご相談ください。

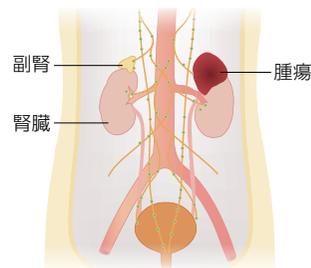
CONTENTS

褐色細胞腫について	4
デムサーについて	6
服用にあたって	8
服用時の注意	10

褐色細胞腫について

褐色細胞腫とは

褐色細胞腫とは、腎臓の上にある副腎という小さな臓器から主に発生する腫瘍です。褐色細胞腫は多くの場合、良性の腫瘍（がんではない腫瘍）ですが、全体の約10%が悪性（がん）です。



主な症状

褐色細胞腫は、良性の腫瘍でも、さまざまな症状を引き起こします。それは、腫瘍が**カテコールアミン**を過剰に産生するからです。

カテコールアミンが過剰に産生されることで、**高血圧、頭痛、動悸、発汗、便秘**といった症状をもたらし、また、血糖やコレステロールなどが高くなることもあります。カテコールアミンの過剰な産生が続くと、心臓に負担がかかり、心不全や不整脈を起こすことがあります。さらに、突発的なカテコールアミンの過剰な産生により、発作性の血圧上昇（**高血圧クリーゼ***）が起こり、命にかかわることがあります。

*高血圧クリーゼ

血圧が急激に上昇し、重い臓器障害を引き起こす可能性があり、ただちに血圧を下げる必要がある状態です。褐色細胞腫では急激な血圧の変動が起こりやすく、腰を曲げた前屈姿勢、運動、くしゃみなど日常の動作で高血圧クリーゼが引き起こされることがあります。

カテコールアミンってなに？

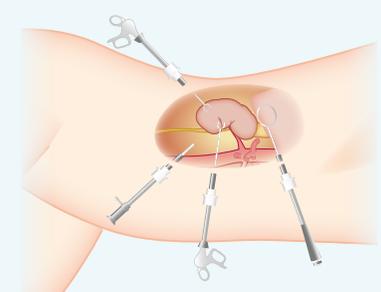
カテコールアミンは、血圧や血糖をコントロールしている生理活性物質（体の機能に影響を与える物質）の一つで、アドレナリン、エピネフリンなどが含まれます。生体にとって必要な物質ですが、多く作られすぎると血圧や血糖値が過度に上昇し、さまざまな症状が引き起こされます。

治療について

褐色細胞腫の第一の治療法は**手術による腫瘍の摘出**です。手術中の血圧変動を避けるため、**カテコールアミンの作用を抑える薬**を、手術の7～14日前から服用します。褐色細胞腫が良性で、手術による摘出ができた後は、多くの場合このような薬を飲む必要はなくなります。なお、手術が受けられない患者さん、悪性の腫瘍の患者さんは、薬による治療を行います。

● ふくくきょう 腹腔鏡を使った手術

比較的小さい腫瘍に対して行います。全身麻酔で行い、手術時間は数時間です。通常、お腹に4カ所の小さな穴を開け、腹腔鏡（内視鏡スコープ）を穴からお腹の中に挿入し、モニターでお腹の中を確認しながら腫瘍を切除します。



● 開腹手術

腫瘍が大きい場合には、お腹を切る開腹手術を行います。

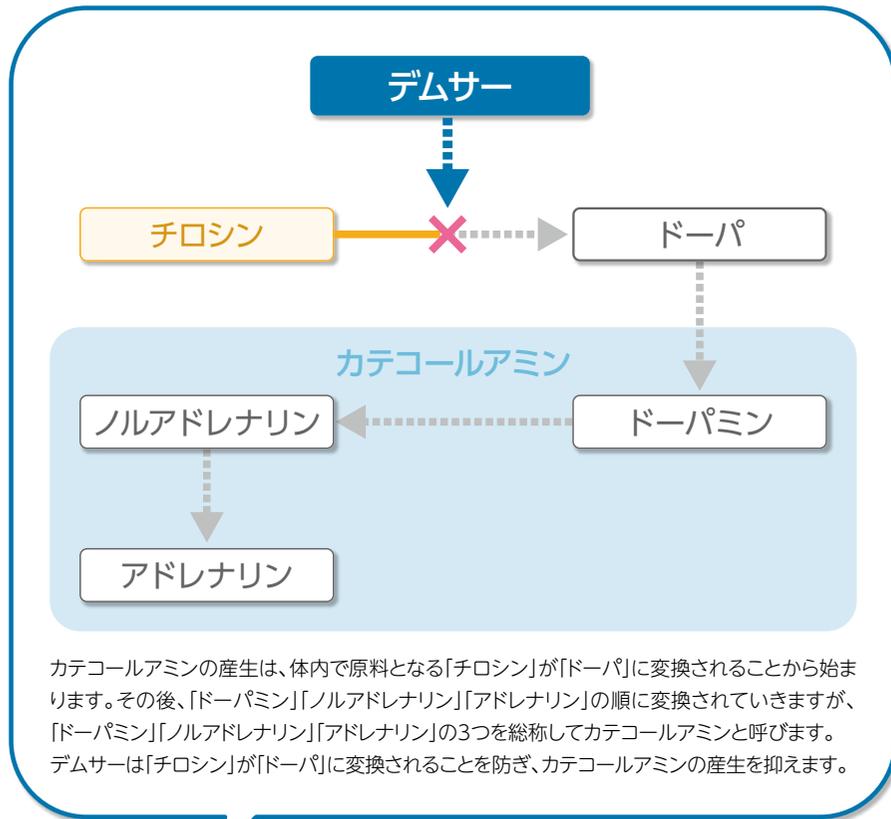
● 薬による治療

カテコールアミンを減らす薬や、カテコールアミンの作用を抑える薬を継続して服用します。

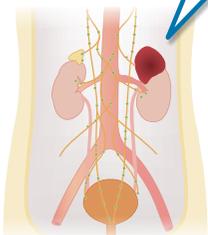
デムサーについて

デムサーとは

デムサーは、体内でのカテコールアミンの産生を抑え、血圧の上昇や、それによって起こるさまざまな症状を抑えます。デムサーはこれまで使用されている薬（交感神経受容体の遮断薬やその他の降圧薬）とは異なる作用でカテコールアミンを減らすことのできる薬として、初めて開発されました。



カテコールアミンの産生は、体内で原料となる「チロシン」が「ドーパ」に変換されることから始まります。その後、「ドーパミン」「ノルアドレナリン」「アドレナリン」の順に変換されていきますが、「ドーパミン」「ノルアドレナリン」「アドレナリン」の3つを総称してカテコールアミンと呼びます。デムサーは「チロシン」が「ドーパ」に変換されることを防ぎ、カテコールアミンの産生を抑えます。



● 症状が出ている状態(カテコールアミンを過剰に産生)



● デムサーが抑えている状態(カテコールアミンの産生を抑えている)



服用にあたって

服用できる方

- 今までの治療薬で十分な効果が得られない方

※手術前の処置または手術が受けられない方・悪性褐色細胞腫の方の治療に使用することができます

服用できない方

- デムサーに含まれる成分に対して、過敏症を起こしたことがある方
- 重度の腎機能障害のある方

服用に注意が必要な方

- 腎機能障害のある方
- 妊娠する可能性のある方
- 妊婦または妊娠している可能性のある方、授乳中の方
- 高齢の方

服用方法

デムサーの服用は1日2回、1回250mg(1カプセル)から開始します。その後、カテコールアミンの測定値や症状に応じて、医師の指示に従い服用量を調整します。服用量をご自身の判断で変更せず、必ず医師の指示に従ってください。デムサーの1日の合計服用量が500mgの場合は1日2回、750mgの場合は1日3回、1,000mg以上の場合は1日4回に分けて服用します。1回に服用できる用量は1,000mg(4カプセル)まで、1日に服用できる用量は4,000mg(16カプセル)までです。また、各服用の間隔は4時間以上あけてください。

服用の仕方(例)

1日の合計服用量	1回に服用するカプセルの数			
	朝	昼	夕	就寝前
500mg(2カプセル)	1		1	
750mg(3カプセル)	1	1	1	
1,000mg(4カプセル)	1	1	1	1
1,250mg(5カプセル)	2	1	1	1
1,500mg(6カプセル)	2	1	2	1
1,750mg(7カプセル)	2	2	2	1
2,000mg(8カプセル)	2	2	2	2
2,250mg(9カプセル)	3	2	2	2
2,500mg(10カプセル)	3	2	3	2
2,750mg(11カプセル)	3	3	3	2
3,000mg(12カプセル)	3	3	3	3
3,250mg(13カプセル)	4	3	3	3
3,500mg(14カプセル)	4	3	4	3
3,750mg(15カプセル)	4	4	4	3
4,000mg(16カプセル)	4	4	4	4

服用時の注意

注意すべき副作用

デムサーの服用中、体に異常(副作用)があらわれることがあります。副作用に早く気づけば、それだけ早く対応でき、重症化を防げます。また、副作用に適切に対処することで、日常生活への影響を少なくでき、治療の継続につながります。体の状態で気になることや、ここで紹介した症状に気づいたら、主治医や看護師、薬剤師にお知らせください。

鎮静、傾眠

(頻度が高く、持続することもある)

- 活動量や発話量が少なくなる
- 眠り込んでしまう
- 刺激がないと眠ってしまう など

※飲酒による鎮静作用を増強するおそれがありますので注意してください

錐体外路障害

- 動きが遅い
- 眼球が上を向く
- 首のねじれやつっぱり
- 手足のふるえやこわばり
- 筋肉のこわばり
- 足がそわそわして落ち着かない など

錐体外路:

大脳皮質から始まる神経経路で、筋肉の伸び縮みを調整して、体がスムーズに動くようにコントロールする運動系の中枢のことをいいます。錐体外路が障害されると、体が思うように動かせなくなったり、逆に、意思に反して、勝手に動いたりする症状があらわれます。

精神障害

- 幻覚
- 妄想
- 興奮
- 抑うつ など

下痢、軟便

- 腹痛
- 水のような便が出る
- 泥状のゆるい便が出る など

結晶尿

- 尿が出にくい
- 排尿時に痛みがある
- 尿が残っている感じがする
- 尿が近い
- 尿が赤みを帯びる など

デムサーを中止した後に、不眠や神経が高ぶったりすることがありますので、これらの症状にはご注意ください。

日常生活の注意

定期的に血圧測定を行ってください。

デムサーはカテコールアミンの産生を減少させるため、血圧低下があらわれることがあります。デムサー服用中は定期的に血圧測定を行うようにしてください。

自動車の運転などの危険を伴う機械の操作を行わないでください。

眠気や錐体外路障害などがあらわれることがあり、デムサーの服用中は自動車の運転などの危険を伴う機械の操作は行わないでください。

1日1Lを目安に積極的な水分摂取を行ってください。

デムサーを成分とする結晶尿があらわれることがあるため、積極的に水分を摂取してください。デムサーを1日2,000mg(8カプセル)を超えて服用しているときは、主治医の指示に従い、1日2L以上を目安に水分摂取を行うようにしてください。